

人生の新たな旅立ちへ 女乗物

仙台市博物館 学芸企画室 小田嶋 なつみ

第13回

今でいう高級車

江戸時代、人を運んだ手段として馬や駕籠をイメージする方も多いのではないのでしょうか。人が乗る部分を一本の棒で吊し、前後を人が担いで運ぶ形式の乗り物に駕籠と乗物があります。

駕籠は庶民にも広く普及した便利な交通手段であった一方、乗物は公家や武家など身分の高い者が使用する高級なものでした。漆塗りで、側面には引き戸が取り付けられており、より居住性と装飾性が高いつくりとなっています。現在で例えるならば、超高級車ともいえる江戸時代の乗物は、所有者の格式と権威を示すものでもありました。

婚礼調度の華！女乗物

乗物の中でも、女乗物と呼ばれる身分の高い女性が使用した乗物は特に華やかです。豪華な蒔絵や金工で華やかに装飾され、当時の技術の粋を集めて製作されています。それは、女乗物が婚礼の際に用意される特別なものだったためです。

姫君の人生において大切な儀式であり、新たな旅立ちともいえる婚礼は当時、家

と家とを結びつける重要な役割を持っていました。そのため、家格を示す婚礼の調度品製作には、労力と費用が惜しみなく注がれたのです。

大名家同士の婚礼では、こうした調度品を携えた婚礼行列が、両大名家の江戸屋敷の間を移動しました。江戸市中のみの移動なので、距離としてはさほど長い旅ではないものの、道中の姫君の心境はどのようなものだったのでしょうか。

写真の資料は文化十一年（一八一四）、紀州徳川家から伊達家十代藩主・伊達斉宗に嫁いだ錯姫のもとと伝わる女乗物です。徳川御三家の姫君ゆかりの乗物のため、葵紋を各所に配し、竹菱と梅の模様を金銀蒔絵で表して華やかに飾っています。内部には源氏物語の場面（初音、紅葉賀、胡蝶）や風景画を描いた板を張り、金襴地の布団を敷くなど、御三家の姫にふさわしい格式を伝えていきます。

新婦は乗らなかつた？

実は本来、婚礼行列の際に姫君は女乗物には乗りませんでした。「輿入れ」という言葉が示すとおり、姫君は白く塗った輿に乗っていたのです。輿とは、人が

乗る部分の下に二本の柄が付いた乗り物です。一方の女乗物には、天児という魔よけの人形と、一對の犬張子（あまがっ）を乗せていました。ただし、江戸時代後期になると婚礼行列も簡略化され、姫君は輿を使わずに女乗物に乗ったようです。

また、女乗物は婚礼後、夫人の外出時にも用いられました。江戸時代の大名家は、江戸の外に出ること自体が許されていなかったため、外出は近隣の神社仏閣への参詣などに限られたようですが、豪華につくられた女乗物は、姫君のその後の人生においても華を添える存在であったでしょう。



竹菱梅葵紋蒔絵女乗物 江戸時代後期 仙台市博物館蔵

おうちで楽しむ展覧会

奥州・仙台おもてなし集団

伊達武将隊と行く！

「高札場を考察?!」
「政宗公の具足体験!」
の2本の動画を配信

はっけん! 仙台市博物館

仙台市のYouTube 公式チャンネル **せんだいTube** で検索!

長期休館のお知らせ

仙台市博物館は、
大規模改修工事のため
休館しています。

令和6年4月に再開予定です。

ご不便をおかけいたしますが、
ご理解・ご協力をお願いいたします。

イラスト提供:伊達武将隊

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ
▶博物館ツイッター

仙台市博物館 検索
@sendai_shihaku

▶お問い合わせ

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074/FAX:022-225-2558
8:30-17:15 ※土・日・祝休日・年末年始(12/28~1/3)を除く